

資機材活用編

消火活動

災害発生当初は、消防機関等による消火活動に頼ることができません。手のつけられないような大きな火災になる前に、まず、家庭に備えてある消火器や水バケツ等で初期消火を協力しあって行うことが大切です。

できるだけ、町内会・自治会レベル、あるいは小学校レベルで以下のような資機材を備え、これらを活用できるようにしましょう。

備えてますか？ 個人・近隣で



家庭用消火器



三角消火バケツ



水バケツ



投てき水パック



ヘルメット



街頭設置消火器



タオル



軍手

町内会・自治会で



街頭設置消火器



町内会等備蓄消火器



大型消火器



軽可搬ポンプ



可搬式散水装置



街頭設置防火用水
(ドラム缶等)

小学校区レベルで



軽可搬ポンプ



大型消火器



河搬式散水装置



簡易組立水槽

こうして消せ！

三角消火バケツ・水バケツ・投てき水パック

§ 三角消火バケツの使い方 §

キャップ
をとる



腰に引き
つける



火に向か
って前方
に押し出
す



§ 水バケツの使い方 §



反動をつけて水を遠くまで飛ばす

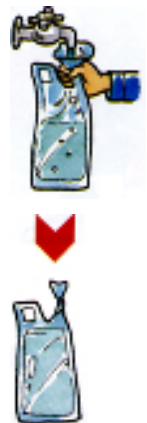
§ 投てき水パックの使い方 §



火元に向かって注水するか、投げつける



投てき水パックの作り方



ポリ袋に水を入れ、
口を縛る



ワンポイントアドバイス

- ・バケツリレーは交互に向かい合って中継しよう！
- ・三角バケツは5～6回に分けて水がかけられる！
- ・投てき水パックは天ぷら油火災などには使わない！

消 火 器

§ 消火器の使い方 §



安全ピン（黄色）を抜く



ホースを火元に向ける（ホースの先端をしっかり持つ）



レバーを強く握る

§ 消火の方法 §

手前から掃くように放射する

天ぷら鍋には近づけすぎない（油が飛び散って危険）
屋外では風上から放射する



（１）壁面が燃えている場合の消火方法の例

火の上側から薬剤をかける



（２）粉末消火器を使って火勢を抑える方法の例

室内で火が天井に達したら初期消火の限界なので消火をやめて避難する
ドアや窓を閉めて空気を遮断する
窓の隙間や玄関ドアの郵便受けから放射する

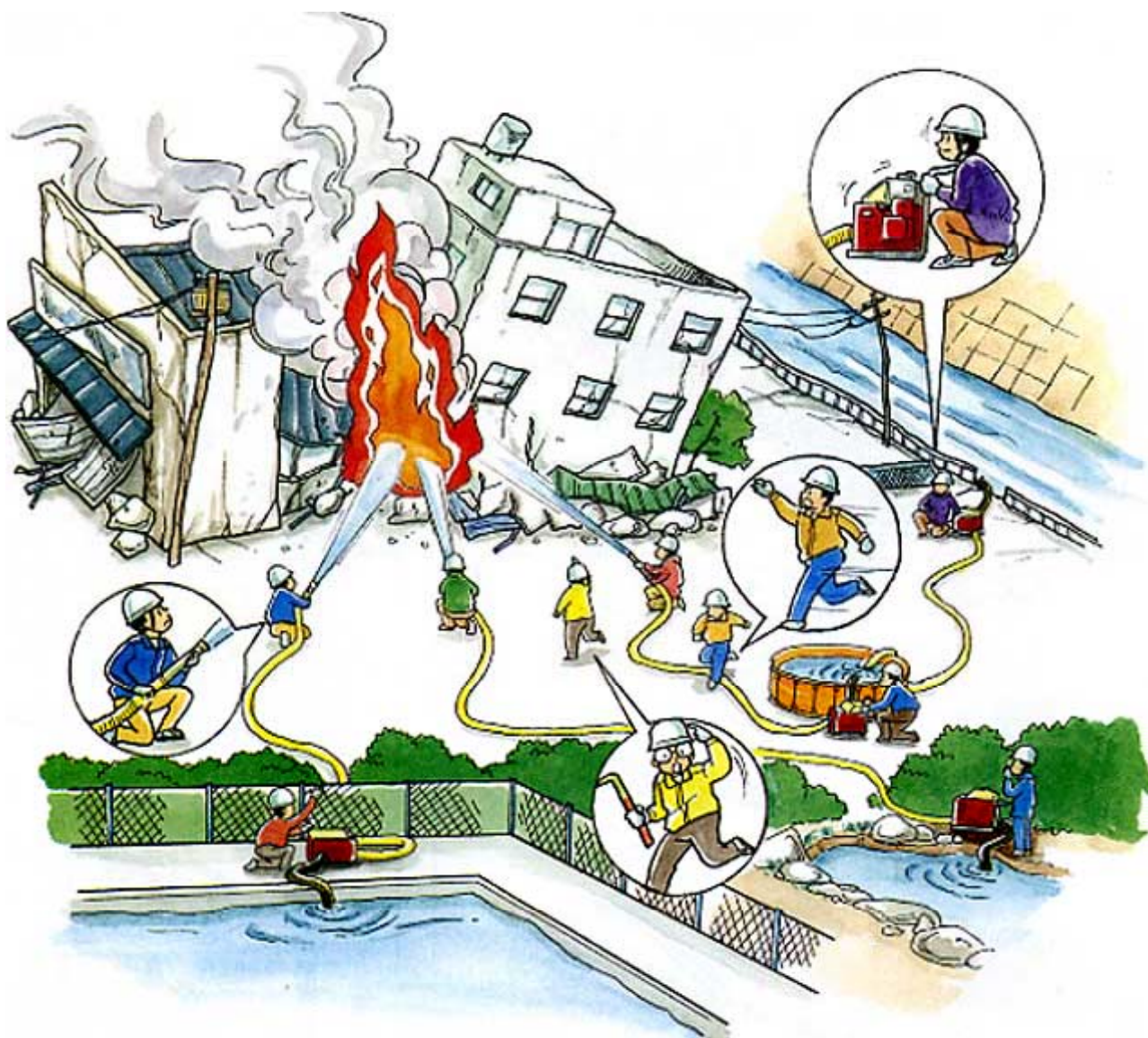


ワンポイントアドバイス

- ・ 消火器の安全ピンは使用直前まで抜かない！
- ・ 消火器で消せるのは火が天井に達するまで！
- 〔 火が天井に達する頃になると、フラッシュオーバー（室内のすべての物が発火温度に高められ、局部的だった火が室内全体に急速に広がる現象）の危険があるため、初期消火をやめて早急に避難せよ！ 〕
- ・ 粉末消火器を使って火が消えても必ず確認を！

軽可搬式消防ポンプ

火元に近い水量のある水源を選び、吸管を入れる
ホースを伸ばすときは、折れ・ねじれに注意する
結合は確実にいき、必ず引いて確認する
筒先担当の合図を確認して、筒先の反動力を考え徐々に送水する



ワンポイントアドバイス

- ・ 河川を利用するときは、吸管を川上に向けて投入する！
- ・ 強風時は風上側から放水すると効果的！
- ・ 延焼を防ぐには優先的に風下側の建物に水をかける！
- ・ 軽可搬式ポンプによる消火活動はポンプ側と筒先側の2人以上に分かれて作業する！